

2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 日本文学日本語学専修	専修共通問題 (No.1)

【問題】 次の文章を読んで、後の問に対する解答を問題番号を添えて解答用紙に記しなさい。

私はここでLeech (1983) におけるポライトネスの原則群の再公式化を試みたい。そこではポライトネスの原理の6つの原則について論じられている。^イ気配り、A、B、^ウ謙遜、一致、Cの原則である。原則という術語は誤って解釈されがちだが、以下の4つの論述にまとめることで、かなり正確な意味で用いられ得ると私は考えている。

- (a)原則とは、話し手のコミュニケーション行動に影響を与える制約である。
- (b)その制約はある特定のゴールを達成することを目的としている。
- (c)そのゴールは、ニュートラルかネガティブの極からポジティブの極へと至る価値の尺度に関連付けられており、程度の多少はあれども達成され得る。
- (d)複数の原則が文脈のなかで互いに衝突したり、競合したりすることがある。

これらすべての原則の意を含むひとつの上位制約——私はこれをポライトネスの一般ストラテジー (GSP) と呼ぶ——について話を始めたい。

ポライトネスの一般ストラテジー (General Strategy of Politeness)

ポライトであるために、S (Self=自己、話者) はO (Other=他者) に関係する事柄の好ましい価値に結びつく意味を、またはSに関係する事柄の好ましくない価値に結びつく意味を、表現したり、含意したりする。

Oは典型的には話し相手を指すが、第三者 (話者や聴者から区別された個人やグループ) のポライトネスもある。したがってOは第三人称でもあり得るが、一般的にはポライトネスが第三人称の指示対象に適用されるのは、少なくともOが現場にいるか、何らかの形で聴者と関係がある場合のみである。

GSPの採用によって、Sは攻撃を回避しようと努めることになる。なぜなら、双方の会話参加者が、もし互いに自分自身の意図を言語を通じて利己的に追求するとしたら生じるであろう不調和を避けようとして、言わば「^オ後ろ向きに身をのけぞらせる」からである。ポジティブポライトネスによってOの機嫌を取ろうとして、反対方向に「^オ前のめりになる」こともある。ここでは意味のコミュニケーションについて議論していることを念頭に置かれない。つまり、ポライトに話している人が、ひそかに、場合によってはあからさまに、利己的な意図を追求していることもあり得るのである。しかし、心理的な動機はポライトネスの語用論には関係がない。語用論はコミュニケーション上の態度にのみ関心があり、語用論的な意義におけるポライトネスは、GSPに従って伝達される意味の問題なのである。

次に示すリストでは、Leech(1983)で示したポライトネスの原則群を再公式化する。「自己の負担を最大限にせよ」や「聴者の負担を最小限にせよ」のような言葉で表された原則は誤って解釈されがちだが、私たちはそれでも、コミュニケーション上の態度に影響を与え、デフォルト解釈——他の原則 (群) や文脈上の要因 (群) によって上書きされない限り——を引き出す様々な要因として、上述のような意味で原則を捉えることができる。ポライトネスの語用論的原則群とはGSPがより特定の具体化したものであると捉えれば、誤解のリスクは減るであろう。下の表で、私は「気配りの原則」や「謙遜の原則」という言葉を用いてこれらの制約を分類し定義したが、それらは同じ上位原則あるいは上位ストラテジー、すなわちGSPの多様な顕現に過ぎないのである。この表では、私は原則の数を6から10に増やしたが、B&L(1987)が私を批判したように原則の無制御な拡張に没頭しているわけではない。

ここでは、前述のようにSとOとが非対称であることを示す5組の制約ペアを挙げる。ポジティブポライトネス (奇数番号) の原則群はS志向であり、ネガティブポライトネス (偶数番号) の原則群はH志向である。聞き手志向の原則群は話し手志向の原則群よりも一般的に強力であることに注意を向けておくことも大事である。

2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 日本文学日本語学専修	専修共通問題 (No.2)

ポライトネスの一般ストラテジー(GSP)を構成する原則

原則	関連する原則ペア	この原則のラベル	典型的な発話事象タイプ
(M1) O の欲求に高価値を与えよ	A 気配り	A	自告
(M2) S の欲求に低価値を与えよ		気配り	他動
(M3) O の特質に高価値を与えよ	B 謙遜	B	賞賛
(M4) S の特質に低価値を与えよ		謙遜	自虐
(M5) O に対する S の責務に高価値を与えよ	責務	(O に対する S の)責務	謝罪、感謝
(M6) S に対する O の責務に低価値を与えよ		(S に対する O の)責務	感謝や謝罪に対する応答
(M7) O の意見に高価値を与えよ	意見	一致	賛成、反対
(M8) S の意見に低価値を与えよ		意見の不主張	意見の主張
(M9) O の感情に高価値を与えよ	感情	C	祝福、哀悼
(M10) S の感情に低価値を与えよ		感情の不表出	感情の抑制

(Leech, G. (2014) *The Pragmatics of Politeness*, Chapter4.3 より (本学教員訳))

- 問1 筆者 (Leech) は本文全体を通じて下線部ア「Leech (1983) におけるポライトネスの原則群の再公式化」を行っている。その内容をなるべく簡潔に2項目に分けて説明しなさい。
- 問2 下線部イ、下線部ウの原則に基づくと考えられる日本語の配慮表現をいくつか挙げてそれらがどのようにこの原則を反映しているのか説明しなさい。
- 問3 文中の空欄A,B,Cに入る語句を書きなさい。
- 問4 下線部エに該当すると考えられる日本語の具体事例を挙げて説明しなさい。
- 問5 下線部オ、カはいずれも、話者が取るポライトネス・ストラテジーを比喩的に述べたものである。それぞれについて日本語の具体事例を挙げて説明しなさい。
- 問6 筆者 (Leech) が本文全体を通じてB&Lから影響を受けたと思われる事柄について説明しなさい。

解答または解答例：

Answer Keys or Examples：

問1 ここでは、Leech(1983)におけるポライトネスの原理 (politeness principle) の6原則を整理し、主に二つの観点で再公式化した。第一に、他者の属性(欲求、特質、意見、感情)に高価値を与え、自己の属性(同上)に低価値を与える一つのストラテジーへと一般化した。第二に、10の下位原則を、B&L(1987)におけるポジティブポライトネスに対応するものとネガティブポライトネスに対応するものとに分けて、対応関係を明示した。

問2 イ(気配りの原則に従う配慮表現)「ご多忙のところ」他者の負担が大きいと述べる表現、「つまらないものですが」他者の利益が小さいと述べる表現。

ウ(謙遜の原則に従う配慮表現)「自分で言うのも何ですが」自己への賞賛を最小限にする表現、「不束者ですが」自己への非難を最大限にする表現

問3 A 寛大性 B 是認 C 共感

問4 エ 例えば、教師と親子による三者面談の際に、教師が親に対して子をほめるのはこれに当たる。

問5 オ(後ろ向きに身をのけぞらせる)自分の欲求を表現する際に、ネガティブポライトネスストラテジーの一つ「ヘッジを用いよ」を用いて「どちらかと言えば、和食のほうがいいかな」と言う。

カ(前のめりになる)相手と対面した際に、ポジティブポライトネスストラテジーの一つ「聴者に気づき、注意を向けよ」を用いて「今日の髪型、とても素敵ね!」と言う。

問6 B&L(1987)はフェイス理論に基づいてポライトネスをポジティブポライトネスとネガティブポライトネスとに分けて捉えているところに特徴があったが、Leechは自身のポライトネスの原理における自己と他者の対立構造を説明する際に、ポジティブポライトネスとネガティブポライトネスとの対立構造と平行に対応するものと捉え直すことで、自身の理論とB&Lの理論の融合を図った。

出題意図：

Intent of Questions：

出題意図：現代日本語研究に関わる上で必要となる最新の言語理論に関する学識を有しているかを確認する。

採点のポイント：1. 最新の言語理論に関する基礎知識と文献読解力、2. 最新の言語理論を現代日本語学に適用する応用力、以上の2点について適切に説明されていること。